

公定歩合引下げに関する政策委員会議長談

(昭和56年12月10日)

物価は安定基調を続ける一方、景気回復の足取りは緩やかであり、国際収支面では経常収支の黒字幅が拡大しつつある。この間、海外金利は低下を示し、為替相場も一頃の円安を改めつつある。

これらの諸情勢にかんがみ、日本銀行は本日公定歩合を0.75%引下げ5.5%とすることを決定した。また本日大蔵大臣から預貯金等の金利の最高限度変更に関する発議を受け、直ちに金利調整審議会に諮問した。

日本銀行は、今回の措置がこれまでの金融緩和の効果と相まって経済活動全般に好ましい影響を及ぼすことを期待するとともに、今後とも物価の安定を基礎とした経済の持続的発展を図るため、為替相場、マネーサプライの動向等を十分注視しつつ金融政策を適切に運営していく方針である。

以上

日本銀行基準割引歩合および基準貸付利子歩合の変更

(昭和56年12月11日実施)

- | | | |
|---|--------|------------|
| 1. 商業手形割引歩合ならびに国債、
特に指定する債券または商業手形
に準ずる手形を担保とする貸付利
子歩合 | 年5.5% | (0.75%引下げ) |
| 2. その他のものを担保とする貸付利
子歩合 | 年5.75% | (0.75%引下げ) |